

学期 / Semester	2020年度 / Academic Year 3クオ ーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Course duration	2020/09/28 ~ 2020/11/20		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0 / 2.0
時間割コード / Time schedule code	20200587063901	科目番号 / Course code	05870639
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 15691_005		
授業科目名 / Course title	a5文化人類学でみる世界と日本 / Anthropology for Cross-Cultural Understanding		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	細田 尚美 / Hosoda Naomi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	細田 尚美 / Hosoda Naomi		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	細田 尚美 / Hosoda Naomi		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟24 / RoomA-24		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	hosoda nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office			
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	Eメールでアポイントを取ってください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	今を生きる私たちには、世界の様々な文化を背景にもつ人たちと交流し、ともに暮らすことが求められています。この授業では、異なる文化というときの文化とは何か、その基本を学ぶとともに、異なる文化を理解しようとする方法についても学びます。自分が慣れ親しんだ考え方からいったん離れて現実をとらえなおし、それを基にして新たな考え方が展開できるようになる力をつけましょう。授業の前半では、文化人類学的な見方から人間と文化について説明します。後半では、文化人類学の中心的な方法であるエスノグラフィー (民族誌) という方法論を紹介し、実際にエスノグラフィーを書く練習をします。		
授業到達目標/Course goals	(1) 異文化理解につながる知識を習得します。(2) 質的研究で重要なエスノグラフィーを書く手法の基本を身につけられます。(3) エスノグラフィーを書くことによって、調査対象について新たな見方ができるようになります。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業参加 (毎回の授業中の積極的な態度や課題への取り組み、コメントシートの内容) 50点、授業中に行う小テスト20点、最終試験 (あるいは最終レポート) 30点の計100点で評価する。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	予習: 小テストや最終試験等の準備。普段から国際ニュースやドキュメンタリーを見ること。事前資料がある場合は資料を読むこと。(2h) 復習: 分からなかった単語や事象を授業後に自分で調べるようにすること。(2h)		
キーワード/Keywords	人間と文化、多様性と他者理解、エスノグラフィー		
教科書・教材・参考書/Materials	教科書はない。授業中に必要な資料を配布する。		
受講要件 (履修条件) /Prerequisites			
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」 (障がい学生支援室) にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		

備考 (URL) /Remarks (URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	授業では受講生それぞれが感じる不思議や違和感について聞いていきます。自分の常識と違うと感じたことをメモしておいてください。また、まわりの人たちの学習のさまたげにならないよう、私語や携帯電話、スマートフォンなどの使用はひかえてください。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience (Y / N)	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容 (実務経験のある教員による授業科目のみ使用) /Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	イントロダクション
第2回	文化とは何か
第3回	文化人類学とは(1)
第4回	文化人類学とは(2)
第5回	文化と経済(1)
第6回	文化と経済(2)
第7回	文化と家族(1)
第8回	文化と家族(2)
第9回	特別トピック(1)
第10回	特別トピック(2)
第11回	異文化との対話(1)
第12回	異文化との対話(2)
第13回	互いの生きる世界を深く知るために(1)
第14回	互いの生きる世界を深く知るために(2)
第15回	まとめ
第16回	定期試験(または最終レポート)

学期 / Semester	2020年度 / Academic Year 4クオ ーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Course duration	2020/11/25 ~ 2021/02/05		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0 / 2.0
時間割コード / Time schedule code	20200587064101	科目番号 / Course code	05870641
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 15701_005		
授業科目名 / Course title	a5国際関係論 / Introduction to International Relations		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	NURGALIYEVA LYAILYA, 細田 尚美 / Hosoda Naomi		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	NURGALIYEVA LYAILYA		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	NURGALIYEVA LYAILYA		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟24 / RoomA-24		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	lyailya.nurgaliyeva@nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は @に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟5F助教室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2938		
担当教員オフィスアワー/Office hours	授業後或いは事前にメールで連絡		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	複雑な国際関係を基礎的な概念と理論で把握し、現代の主要な国際問題(たとえば、平和、環境、難民、寛容など)を検討する。その背景にある歴史、文化、思想、経済の変化は国際関係の学際的な枠組みを作り上げる。安全保障、経済と社会のグローバル化、人権の擁護などを事例にして、国際関係の理解を目指す。		
授業到達目標/Course goals	この授業では、複雑な現代国際関係を理解することと国際関係に関する基本的な判断力を養うことを目標とする。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	出席 = 10% ディスカッション = 10% 最終レポート = 80% *期間中に行うディスカッションも評価の対象とする *ディスカッションに参加するためには講義への出席が最低条件となる		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	予習: ディスカッションや最終試験等の準備。新聞やテレビなど、いきかうニュースを見ること。事前資料がある場合は資料を読むこと。(2h) 復習: 分からなかった単語や事象を授業後に自分で調べるようにすること。(2h)		
キーワード/Keywords	平和と紛争、国際移民、国家、外交、グローバル化、人権、人間の安全保障、国家安全保障		
教科書・教材・参考書/Materials	教科書1: 『現代国際関係学?歴史、思想、理論』 進藤榮一、有斐閣Sシリーズ、2001年 教科書2: 『現代国際関係論』 花井等、岡部達味、東洋経済新報社、2005年 教科書3: 『国際政治学をつかむ』 村田晃剛 [ほか] 著、有斐閣、2015年		
受講要件(履修条件)/Prerequisites	どなたでも受講可能です。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 。アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考（URL）/Remarks（URL）	
学生へのメッセージ/Message for students	授業中に行うディスカッションに積極的に参加することは非常に重要です。
実務経験のある教員による授業科目であるか（Y/N）/Instructor(s) with practical experience（Y / N）	N
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	オリエンテーション：国際関係、グローバル化、人間
第2回	国際関係と歴史
第3回	国際関係の理論（リアリズム、リベラリズム、構成主義）
第4回	パワーと国益
第5回	対立と強調
第6回	外交
第7回	国際政治経済
第8回	現代国際問題
第9回	地域研究
第10回	人間と国際関係（1）人権
第11回	人間と国際関係（2）安全保障
第12回	人間と国際関係（3）経済発展と貧困の削減
第13回	世界の中の日本（1）歴史
第14回	世界の中の日本（2）現代
第15回	統括

学期 / Semester	2020年度 / Academic Year 2クオ ーター / Second Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Course duration	2020/06/11 ~ 2020/08/07		
必修選択 / Required / Elective	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General / Transfer / Overseas)	2.0 / 2.0
時間割コード / Time schedule code	20200587066101	科目番号 / Course code	05870661
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEMB 16371_005		
授業科目名 / Course title	a5文化資源と日本COC / Cultural Resources in Japan		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	才津 祐美子 / Saitu Yumiko, 細田 尚美 / Hosoda Naomi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Instructor in charge of the course	才津 祐美子 / Saitu Yumiko		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	才津 祐美子 / Saitu Yumiko		
科目分類 / Course Category	全学モジュール 科目		
対象年次 / Intended year	2, 3, 4, 5, 6	講義形態 / Course style	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育G棟38 / RoomG-38		
対象学生 (クラス等) / Intended year (class)	教・経・薬・水		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	saitu.kogi gmail.com (を@に変更して送信してください。)		
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	金曜日 14:30 - 16:00 事前にメールで連絡してください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	文化の創造・継承・活用の現代的な在り方を、文化の資源化という視座から、様々な言説および実践を通して考察する。事例として、身近な文化的事象 = 長崎に関するもの (「潜伏キリシタン関連遺産」や「よさこい」など) も取り上げる。		
授業到達目標/Course goals	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の創造・継承・活用の現代的な在り方を知り、説明できるようになる (DP-1、DP-2、DP-3、DP-4、DP-6)。 ・自らの身の回りの文化に目を向けるようになる (DP-4、DP-6)。 ・一つの事象に対して多角的に考察する必要性を理解し、自らもそのような考察ができるようになる (DP-1、DP-2、DP-3、DP-4、DP-6)。 		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) /Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Teaching method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	ミニツツペーパー (40点)、期末試験 (60点)		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	【予習】LACS上でレジюмеや参考資料を配布するので、授業前に読み、わからない言葉などは調べ しておくこと。(2h) 【復習】授業の内容を復習し、理解を深めること。(2h)		
キーワード/Keywords	文化資源、地域文化、観光、文化政策、文化財 / 文化遺産、知的財産権		
教科書・教材・参考書/Materials	基本的には、講義ごとに要点をまとめたレジюмеを配布する。 参考文献：岩本通弥編2007『ふるさと資源化と民俗学』(吉川弘文館)、才津祐美子2020『世界遺 産「白川郷」を生きる - リビングヘリテージと文化の資源化』など(講義内で適宜紹介する)。		
受講要件 (履修条件) /Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考（URL）/Remarks（URL）	
学生へのメッセージ/Message for students	毎回授業の最後に提出するミニツッパーパーを利用して、授業に積極的に関わってください。
実務経験のある教員による授業科目であるか（Y/N）/Instructor(s) with practical experience（Y / N）	
実務家教員名 / 実務経験内容 / 実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	本講義の概説 - 「資源」としての文化 日本の観光史(1) - 概論編
第2回	日本の観光史(2) - 国際博覧会編
第3回	地域と文化(1) - 日本の文化政策の転換
第4回	地域と文化(2) - 文化政策の背景
第5回	地域と文化(3) - 文化政策の現在 地域文化は「財」である(1) - 日本における文化財保護制度の変遷
第6回	地域文化は「財」である(2) - 点の保存から面の保全へ
第7回	地域文化は「財」である(3) - UNESCOの世界遺産条約
第8回	地域文化は「財」である(4) - UNESCOの無形文化遺産保護条約
第9回	事例でみる文化の資源化(1) - 「白川郷」の発見（「大家族制」）
第10回	事例でみる文化の資源化(2) - 「白川郷」の発見（「合掌造り」）
第11回	事例でみる文化の資源化(3) - 「合掌造り」の文化財 / 文化遺産化とその影響
第12回	文化遺産の遺し方 - 移築保存と現地保存をめぐって
第13回	文化遺産の「価値」とは何か - 「潜伏キリシタン関連遺産」を事例として
第14回	文化の変容・創造・伝播(1) - 概論編
第15回	文化の変容・創造・伝播(2) - よさこい編
第16回	講義全体の総括および期末レポートの提出